

秀賞

新たな世界へ、今、一步踏み出す

山形県山形市立蔵王第二中学校

2年 小関 福丸

「わたしのチャレンジ」という言葉を聞いて真っ先に思い浮かんだのは、中学1年生の時のことです。その頃の僕は、学校に行かない生活を送っていました。何に対してもチャレンジする気が起きました。運動もせず、太陽も浴びずにゲーム三昧で、次第に体力が落ちていきました。そんな僕の様子を、母はとても心配していました。僕も、そんな自分を次第に嫌いになっていきました。「友達のせいだ」など、どうしようもない気持ちを誰かにぶつけようとしていました。その一方で、新しいことにどんどんチャレンジしていく姉や弟、家族のみんなに嫌気がさすこともありました。「何かしなきゃ」と感じていても、「今更チャレンジをしても」という思いが心をよぎりました。時には、死にたいと思い悩んでしまうこともありました。そんなこんなであつという間に月日は過ぎていきました。いつもそばで見守ってくれていた母は、僕にいろいろな提案をしてくれました。僕自身も何かしなきゃと考え、フリースクールに行ってみたりしました。案外僕にはあっていましたが、自分の鬱の感情が、何かにチャレンジすることに対して拒否反応を示していました。

10月の下旬、気分転換で、母の実家がある山形を訪れました。あたり一面田んぼの景色が広がり、夜には星空を眺めたりカエルの鳴き声を聞いたりして、学校という言葉に縛られずに自然と触れ合って過ごしました。日々楽しく過ごす中で心にゆとりが生まれたからか、少しずつ学校のことを意識し始めるようになっていました。いろいろな思いを抱えながら、僕は自宅に戻りました。自宅では毎日だらだらでしたが、気づくと、少しずつ何かにチャレンジし始めました。プールに行って泳いだり、ランニングをしたり、運動をしているうちに心が軽くなっていくのがわかりました。これからのことに向き合おうとする自分がいました。

ある冬の日、母が蔵王にある学校を教えてくれました。大自然が広がっている写真に心ひかれて、自分の目で確かめてみたい思いで見学に行きました。とてもいい学校でした。生徒数が少ないところが、僕にとってはとてもいい環境でした。僕は、「蔵王でなら何か新たなことへ突き進むことができるかもしれない」と思いました。

そして迎えた4月。僕は、親元を離れ、祖父と祖母との新しい暮らしをスタートしました。新たな学校で、中学2年生としての生活が始まりました。蔵王

は自然が豊かで、人とすれ違う時には、知らない人同士でもあいさつをする地域でした。そんなあたたかい環境の中で過ごすうちに、僕はいつの間にか昔のことを忘れていました。友達もでき、近所の人との付き合いを通して次第に心が軽くなっていました。1年間の不登校の経験があったからこそ、学校の良さに気づくことができたのかもしれません。嫌だったはずの勉強にも進んで取り組むようになりました。毎日の生活の中で無意識にチャレンジを繰り返すうちに、チャレンジすることに楽しさを覚え、チャレンジしたいことが増えていました。僕がこんなふうに変わったのは、陰ながら支えてくれた家族の存在があったからなのかなと、今では思います。

今、僕には新たにチャレンジしたいことがあります。それは科学者になる夢です。僕は山形での生活を始めてからいろいろなことに興味を持ち始め、たくさんの本を手に取りました。また、中学2年生の元素記号の授業をきっかけに、科学者という存在にひかれていました。科学者になるという新たな目標のために挑戦したいことが二つあります。

一つ目は、知識や情報を得ることです。現代においてまだ解明されていない科学技術や未知の世界を追求していきたいと思っています。二つ目は、海外留学です。世界にはさまざまな考え方があり、自分の常識を打ち破ることで新たな世界を生み出していきたいと思っています。

これから先も、誰かの幸せにつながるきっかけを与えられる科学者を目指して、僕はチャレンジを続けていきます。そして、自分以外の他者のチャレンジも後押しできるような人になれたらいいなと、心から思います。